

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【牧区】意見交換の内容

開催日：令和 8 年 5 月 14 日（木）

会 場：牧コミュニティプラザ

参加者：36 人

（参加者）

牧診療所に常勤医がいないことについて、地域協議会でも陳情した経過があります。即座に対応いただける状況ではないとは思いますが、ぜひまた検討を継続していただきたいと思います。前市長にもお願いした経緯がありましたが、現状はどうなっているのかお聞きしたいです。

（牧区総合事務所長）

現在、牧診療所には常勤医はいらっしゃいませんが、知命堂病院、大島診療所、地域医療センター病院の医師から曜日ごとに来ていただき、診察を行っている状況です。

（参加者）

農業をやっています。診療所の話ですが、医療はやっぱり要です。それから、JA 牧支店に購買があるのですが、牧区で食料品が買えるのはそこだけです。医療と食料は一緒だと思います。最後の砦である JA 牧支店の購買と診療所は何が何でも、引き継いでいてもらいたいと思います。

話は変わりますが、30 年以上前、牧区は教育立村として教育費に予算をかけていました。中学校が統合になって、小学校までなくなったら教育費はいらなくなってしまいます。他の教育の形もあるとは思いますが、この点についても感想をお聞きしたいです。

（市長）

まず、診療所につきましては、まさに地域の中核でもありますので、できるだけの存続を図っていききたいと思っております。

JA 牧支店の購買については、運営主体が JA なので、市が直接どうするというわけにはいきませんが、人口が減っていく中で最低限の機能をどう維持していくか、1 か所に色々な機能を集約して、必要な機能を残していきたいという検討を、まさに創造行政研究所の研究プロジェクトでやっております。そんな経過も見ながら、できる限りの形でやっていきたいと思っております。

小学校については、児童数が数年後には 10 人とか 11 人という予測になっています。統合ありき、という考えはありませんし、皆さんの考えをよく伺い、子どもにとってどういう制度・施設が一番良い教育かということが根本だと思います。それについては、皆さんとよく意見交換を行いながら話し合っていきたいと思っております。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【牧区】意見交換の内容

全般的なことを申し上げれば、今どこの区でも起こっていますが、小学校・中学校の統合や行政機関の集約化は、客観的に言えばやむを得ない方向だと思います。その中でも、病院の話も含めて、交通弱者が生まれないように、不便が生まれないように、そこは十分考えていく必要があると思っております。

（参加者）

上越ケーブルビジョン（以下、JCV）は子どもたちや地域の様子がよくわかる、良い番組だと思いますが、実は牧区では、JCVが通じていない地域があります。自分の孫などが市の中心部にいて、運動会などの姿が放送されても見ることができない、という地域がかなりあります。私の住んでいるところは映るのですが、身近な情報に接することができないという人がかなりの数います。新聞についても今、人手の関係で届けられないような地域も出てきていて、情報に触れるということが難しくなっていると思います。JCVは民間の事業者ですが、みんなに地域の情報が届けばいいなと願っております。行政の方で何か支援がありましたらお願いできればと思います。

（牧区総合事務所長）

JCVについては、牧区の入口の宮口から柳島まではケーブル線が来ているのですが、その先がまだ整備されていないという状況です。視聴できる方は、総合事務所周辺の方のみという状況です。

（市長）

JCVは民間事業者ですので、市が直接どうこうすることはできませんが、何ができるのか、検討していきたいと思います。

また、新聞が届けられなくなったということについては、最近はウェブ版というのがありますので、インターネットを使って情報を見るということはあるかと思いますが、必ずしも、新聞が届かない＝（イコール）情報が断絶している、ということではないと思います。もちろん、それが使いにくいという方もいらっしゃると思います。

他の区ではテレビの共同受信設備が古くなって維持ができないため、JCVに切り替えてもらう必要があるというお話もありますので、JCVと相談をさせていただきたいと思います。

（参加者）

国や県、上越市が、スマート農業や米作りについていろいろなアイデアや計画を出していますが、個人的には、中山間地域にとっては活用が難しいものと考えています。上越市は「中山間地域は大事だ」との方向性ですので、次年度の予算を組んだり、計画を作る時に、もう少し中山間地域の農業者の意見を聞いていただきたいのですが、いかがでしょうか。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【牧区】意見交換の内容

（市長）

いろいろなチャンネルで意見を伺っているつもりですが、不十分ということであれば、さらにいろんな場面を通じてご意見をいただきたいと思います。

それでも市はかなりのことはやっているといます。例えば棚田米の販売促進やスマート農業も使えるところは使えると思います。ドローンで農薬を撒くとか草刈りだとか、人材不足に有効だと思いますので、そこは否定する必要はないと考えています。

もちろん、経済的に中山間地域の農業が困難だというのは十分承知していますから、国でも経済安全保障や国土強靱化などの面から考えています。市としても自立や維持を図っておりますので、またこれからも意見交換をさせていただければと思います。

（参加者）

この豪雪地帯の林業を見直していただきたいです。学説では積雪が 1.5 メートル以上のところは、スギの林業は適さないということになっております。牧区では、長野県境の雪深いところまでスギを植えています。そこにはブナの天然林があり、放っておけばブナの林になったのに、全部切ってしまいました。もったいない話です。行政としてあらゆる目配りをして、今の林業政策が本当に正しいのか、チェックしていただきたいと思います。

牧区は非常に道路事情が良いです。冬期間でも、どの集落へも行けます。なぜこの話をしたかと言うと、私はメープルシロップを作っています。メープルシロップの原料が採れるイタヤカエデの木は、道路の近くにあるのが良いのです。遠いところでは道路から 400 メートルくらいのところにあるのですが、樹液を運ぶのに体力が持ちません。先ほど申し上げたようにスギは良い材が採れないですから、道路から最低 50 メートルくらいはスギを切って、そこにイタヤカエデなどの広葉樹を、そしてもっと奥にはナラを植えていただきたいです。そうすることで採取がもっと楽になります。ナラはシイタケの原木に使います。切っても、萌芽更新といって芽が生えてきます。赤字のスギ生産を脱却してもらいたい。そういった林業のプロは上越市にいないのでしょうか。

（市長）

林業の組合などでプロはいらっしゃるのではないですか。そういうところでよくお話はされていますか。

（参加者）

上越地域振興局や上越森林管理署もありますが、それぞれの立場があり、お互いの管轄のことまで言いづらい部分もあると思いますので、懇談会のようなものを設けて話し合ってもらいたいと思うのです。牧区の林業について、もう少し何か良い方法はないか、ミーティングの機会を持っていただければと思います。私の夢ですが、道路沿いにイタヤカエデを 2 万本ほど植えて、将来樹液が採れるようになれば、毎年 2 億円の産業になります。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【牧区】意見交換の内容

（参加者）

市が過疎地域持続的発展計画の案を作って提案されていた時に話したのですが、地球温暖化や災害対策という観点で、植林・林業関係の見直しをして、二酸化炭素の排出抑制を換金できるような仕組みを、上越市として国に働きかけながら、それが産業となるような仕組みづくりをしていただきたいと思います。

（参加者）

メープルシロップ等で産業にならないかという話でしたが、私はとっても良いことだと思います。道路沿いのスギの木を切ってカエデの木にすれば、秋になると紅葉した綺麗な並木が続いて観光になりますし、メープルシロップで収益も出ると思います。

スギ林は林床に光が入らないので、下草が生えずに地盤が脆弱になって崖崩れなどが起こってしまいます。さらには、最近クマなどの獣害が全国的に問題になっていますが、スギを切って林床に光を入れ、ナラの木を植えれば秋にドングリが実り、動物が食べられるようになります。そうすれば、田畑への獣害が少なくなると思うので、その考えはとっても良いと思います。民間の人がやるのは少し難しいと思うので、市が関与できれば良いと思います。

（参加者）

今はスギの木は挿し木で増やすのだそうです。種から育てる実生（みしょう）だと、地面に根が張るのですが、挿し木だと横にしか根が張りません。そうすると土砂崩れなどの災害が起きた時は一気に持って行かれるという話があります。ですから、たくさん植えるのであれば、実生で育てた苗を使っていただければと思っています。

（参加者）

私は関東から移住してきて、今は定住という形で住んでいます。家族が彫刻をしており、物を作りたくて東京では手狭ということで移住してきたのですが、地域の皆さんが本当に優しくて、無料で立派な木を提供してくださります。展覧会に出品しても、まず作品の評価の前に「この木はどうした？」と木の評価をいただくことが非常に多いです。

林業という視点では山のことや獣害ということがありますが、ものづくりという視点では、昔ここに住んでいた方たちは、冬の間に木を切って製材するという仕事をしていて、古い道具をいただいたりして「昔はこんな産業があったのですね」という話をたくさん伺いました。皆さんの生活に根ざした木のあり方の話を家族で聞いて、木をいただけるって本当にありがたい、私たちだけでは何もできないいつも感じております。

アイデアのひとつとして、市長が掲げている「産業いきいき」の「若者にとって魅力ある企業の誘致」において、木を使うような企業を誘致の候補に挙げれば、ここにはたくさん「木」という資源がありますので、皆さんの抱えている問題も含めながら市長の掲げる政策

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【牧区】意見交換の内容

にも反映できるのではないかと思います。

（市長）

牧区にスギを植える、植えないという話は、くびき野森林組合でお話はされないのでしょうか。一義的にはそこがまず、お話しをする場ではないのでしょうか。そこでそういった議論はされないのでしょうか。

（参加者）

私たちはそういう議論をする立場ではないので。

（市長）

森林組合には入っていらっしゃらないのですか。

（参加者）

入っています。

（市長）

なぜそこで議論をされないのか、率直に不思議に思いました。

（参加者）

それでは総会などの会合に出て話をしてみたいと思います。

（市長）

その森林組合の会合で基本的にはどこでどの木を植えるか、どういう政策でやるかお決めになっているのではないのでしょうか。

（参加者）

おそらく、国の補助事業のシステムがそうなっていて、スギを植えることにつながるのだと思います。森林組合というよりも、国の補助事業の仕組みが問題なのではないのでしょうか。

（市長）

そこはまず議論ができるのではないのでしょうか。

（参加者）

市と国で、現地ではこういう問題が出ているという話をしていただきたいのです。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【牧区】意見交換の内容

（市長）

わかりました。それはご意見として伺いました。まず地元の皆さんでよく意見交換をしていただければ、と思います。というのは、必ずしも今いただいたご意見が、本当にこの地域の皆さんの総意なのか、それを今この場では判断ができませんので、まずはよくお話しをされるのが第一歩ではないでしょうか。

それから炭素のクーポン化の件ですが、これは既に市で取組を始めています。また、私は林業の専門家ではありませんが、建材として立派な木材が上越にはありますし、発電用のチップとしても可能性があると思いますので、その辺も森林組合などとよく方針を決めていただければ良いのではと思います。もちろん市としてできることはやりたいと考えています。

それから、木を使う産業については、若者に魅力のある産業として成り立つかどうかだと思いますので、そこをよく見極めないといけないと思います。できるだけ、今申し上げたようなチップ化あるいは炭素のクーポン化などを使いながら、維持できる林業というものを目指すべきだと思います。

（参加者）

牧区はとても資源のあるところですよ。林業もそうですし、深い雪が降るおかげで、去年の渇水時には、市内のいろんなところからたくさんの人が牧区に水を汲みに来られました。牧体育館と深山荘に給水地点を置いたおかげで深山荘も繁盛しておりました。そういう点では、水は本当の宝、雪も宝だと思っております。

その他では、牧区ではかつて石油が出ました。歴史民俗資料館にも、昔の盛んな時の様子が展示してありますが、今も鉱山という形で、牧ふれあい体験交流施設に石油の井戸があります。最初を目論見では、ガスを取り出して燃料として使おうということだったらしいのですが、ガスは必要量に足りず、石油が出てきました。ところが今、石油は国内ではほとんど汲み上げていないようです。せっかくある資源ですが、汲んではいけない、燃やしてはいけない、捨ててはいけないと、とにかく蓋をしてそっとしています。

交流館付近の皆さんは、天然ガスを自家用に使っておられるところもたくさんありますし、リニューアルした鷹羽鉱泉では、お湯の源泉を天然ガスで沸かしたりしています。昔は天然ガスで発電機を起こして、電気も作っておりました。

今はイランの紛争などで、燃料に関しても心配しているところですので、牧区にせっかくある石油を使えないか、県内で石油を精製するところがあるのかも分かりませんが、牧区のそういう資源を生かすための調査を上越市でしていただければありがたいと思います。宝の持ち腐れではなく、それを汲み上げて活用してもらえれば、何よりだと考えております。

（総務部長）

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【牧区】意見交換の内容

現在も国内で石油は汲み上げられていますが、国内で使用される全体量からすると微々たるもので、石油のほとんどは輸入で賄われています。それを活用できるかというのは埋蔵量にかかっており、それを採掘するための費用との関係から、おそらく牧区の石油についてはそれほど埋蔵量がないということで、商用の開発はされていないのだと思います。ただ、自家用ではお使いいただけるということなので、自家用として活用していくのが現実的ではないかと思います。

（市長）

石油の所有権はどこが持っているのでしょうか。民間企業が持っているのでしょうか。

（参加者）

牧村のときに鉱山として鉱業権を持ったはずです。

（市長）

牧区だけではなく、県内でも新津などで多少石油は出るのですが、先ほどの説明にもあったとおり採算が取れないということだと思います。国が禁止しているとか、そういうことではなく、例えば民間企業が権利を持っているのであれば、そこの方針でないかと思います。全国的にも採算が取れない、そういう量や性質であるということだと思います。

（牧区総合事務所長）

今確認した情報ですと、鉱山については廃止されているということでもあります。現在、自家用での利用は継続していただけるということで、資源として活用できれば良いのですが、なかなか難しいということで、活用まではなされていないということだと思います。

（参加者）

市長の4つの視点の中の「みんなの笑顔」、多世代交流プレイスの関係ですが、乳幼児や子どもたちがまずあって、そこに高齢者の方が集まると思うのですが、牧区では人口のボリュームゾーンが70代後半、その次が50代前半で、子どもは限りなくゼロに近い状況です。多世代交流プレイスを作る時に、「牧区は子どもが少ないから優先順位が低い」ということにはならないようにお願いしたいです。

また、新規就農者の補助制度などでは年齢要件がありますが、平場と中山間地域では年齢要件が異なります。中山間地域では割と年齢を重ねてから就農される方が多いので、年齢要件が平場より上に設定されています。私でいうと中山間地域では対象になりますが、平場では対象外になります。このように、様々な補助制度をお考えになる際には、平等という意味では同じ年齢設定が良いのですが、公平という点では中山間地域では条件が違いますので、地域の実情、特に年齢構成には大きな違いがあることを踏まえていただけるとありが

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【牧区】意見交換の内容

たいです。

(参加者)

今出ました年齢制限の話は自分が活動している団体にもすごく切実に関わる部分があります。私たちは牧区のワークショップで集まったメンバーで、昨年度までは新潟県から補助金をいただいて活動していましたが、これが無くなってしまったので、今年度から市の地域独自の予算事業で申請させてもらいました。

他にも、上越市地方創生・若者重点支援補助金などがありますが、補助要件を見ると、若者とは15歳から39歳までで、メンバーの半分以上が39歳以下であることとなっていました。自分が活動している団体のメンバーは10数名いますが、39歳以下は3、4人です。

平等であることは確かに重要だと思いますが、平等と公平は全然違うと感じます。牧区の中では60歳でも若者です。平場の基準に当てはめられて、「中山間地域だから諦めよう」という気持ちにならないよう、考えていただけるとありがたいです。

また、市の高校生通学定期券購入費補助制度がありますが、牧区のコミュニティプラザから高田駅までは片道800円かかります。1年間の定期を買うととんでもない額になり、補助額の2万円では到底足りません。中山間地域に生きている若者の数はものすごく少ないですが、そこで子育てをしている方はまだ数人いらっしゃいます。その人たちの子どもが大きくなってきたときには、お金がすごくかかってきます。そういったときに、希望が持てるような政策をぜひ中山間地域にもお願いします。

(市長)

補助制度の年齢制限については柔軟に考えたいと思います。いただいた意見を反映させていきたいと思います。

通学定期券購入補助について、もちろん予算の制限等がありますが、基本的にはそういったところでもできるだけ拡充していきたいと思いますし、今後は子どもの医療費の無償化なども考えていかないといけないと思っています。

多世代交流プレイスはまさに多世代ですので、子どもがいないからだめということは全く考えておりません。むしろ牧区も含め13区、高齢者が集まっていただき、子どもと触れ合って元気をもらい、また、若い親に育児の知恵を教えたり、人生経験を話してもらい、そんな場にも使っていただきたいと思っています。ぜひ使い方のアイデアがあればどんどん取り入れていきたいと思っています。

(参加者)

池の水位変化による地震の予知についてです。中越地震や東日本大震災の前に、私の家の池の水位が異常に変化したり、田んぼが濁ったりしました。その濁りを調べるために全国に濁りの観測ネットワークを作っていただきたいというお願いです。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【牧区】意見交換の内容

（参加者）

ふるさと納税について、返礼品として米を中心にしていますが、これを一層推進していただきたいです。

（参加者）

深山荘などの宿泊・温浴施設について、合併して施設の数が多くなり市の負担も大きく、施設の老朽化も進んでいます。今後、公の温浴施設をどのようにしていくお考えか、お聞かせください。

（市長）

まず、池の件については、また詳しく教えていただければと思います。

次に、ふるさと納税の米については、今後も拡大を図っていききたいと思います。棚田米のロゴマークも作りましたので、売り出していききたいと思います。SNSを使った宣伝や新商品開発される企業などにも補助金を出しておりますので、それを使ってやっていききたいと思います。

それから、温浴施設については、深山荘も含め、各区の施設を見て回っていますが、基本的には大赤字のところが多いです。市として、莫大な金額を負担して維持していくのが適切か、市民の保養や健康とのバランスをどう考えるかということになります。基本的にはやはり少しずつ施設を減らしていかないといけないと思っています。どこを残すかについては、地域の需要や全体のバランスを考えながら、検討を始めているところです。

（参加者）

バランスをとるとなかなか難しいと思うのですが、深山荘は牧区にとってすごく大事な施設なので、無くしたくない、無くせないという思いが強いです。需要や他の施設の利用者数はわかりませんが、深山荘は牧区の方はもちろん、他の区からも、特に老人クラブの皆さんの利用があり、良いところだというお褒めもいただいています。そういう声を聞くと、余計に無くしたくないという気持ちがあります。

（市長）

先ほども申し上げましたが、市が莫大な負担をして、サービスを提供し続けることが本当に市民のためになるのか、そこにかかっている費用が、他に必要とされる健康・福祉施策に充てられるか、そういうことを考えていかなければならないと思っています。ただ、廃止ありきではありません。

（牧区総合事務所長）

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【牧区】意見交換の内容

深山荘は、牧区の皆さんが一番大事にしている温浴施設であること、年間 2 万 1 千人の方が利用されており、指定管理者が大変ご尽力くださっていることは承知しております。市も指定管理者と連携をして、深山荘の発展に努めていきたいと思っております。